

1月21日(木)

おはようございます。

松下幸之助は、会社に採用する際の人材の絶対条件を、運のいい人でなくてはならないと言っています。

運がいい人というのはどういうことかという問題になりますが、まず、自分が幸福か不幸かということについての基本的な考え方があります。諸君たちは、自分は不幸だと思っている人もいるかもしれないが、その基本はあるのです。どういうことかというと、諸君は毎日学校へ登校できていて、そして勉強をできる環境にあるわけですから、基本的に幸運だと言ってよいと思うのです。このように自分はまずは運のいい人間だと思えるということは大切なことです。結局それは、自分がポジティブにものを考えられるということだからです。あなたは運のいい人ですかと、このように誰かに聞かれたときに、自分は幸運な人間ですと答える人は、楽天的な人間だと思うかもしれませんが、どちらかというと、これはものごとをポジティブに考えられる人だということなのです。ここがすごく大切だと僕は思います。

今 NHK の大河ドラマで「真田丸」が話題になっていますが、『城塞』という司馬遼太郎が書いた小説で、大坂城が落城するその下巻のところに、真田幸村のことが書いてあります。「幸村と後世賞せられる真田左衛門佐(さえものすけ)という人物はやはり尋常の人物ではなかったと思われる。なぜかという、敗戦のぎりぎりまで計算力を働かせて、自分の運をけっしてあきらめず、その執念というのは異常であった」とこう書いてある。

このように最後の最後まできちんと希望をもってやれるかどうかというのは大切なことです。特に高校3年生でセンター試験を受けた生徒は、その結果で、受験する大学が決まります。これは、まったく可能性のないところを受けてもしかたありませんけれども、少しでも可能性があるなら、最後まであきらめないことがすごく大切です。

僕は、2011年にドラマ法王様が高野山でなされた金剛界の灌頂の通訳にあたりました。2006年にも行いましたが、金剛界の灌頂の通訳というのは、日数的にいうと2日間ぐらいの通訳でして、ずっとチベットにいるわけでもないですから、ほんとうのこと言うと、通訳にあててもらい嬉しかった。しかしとても不安に思っていました。そのときに僕が仏教を教えている経営者の方が次のように言ってくれました。いろいろな人のある中で先生が、ドラマの通訳に選ばれたというその段階で、すでに成功は約束されているのだと思うので、先生が不安を感じる必要はないですよ。ほんとにそうだなと思い、それで僕は落ち着きました。

これから、諸君たちはセンターテストをうけて、あまたある条件をクリアして、自分の第一志望の大学ではないかもしれませんが、その学校を受験

できる資格があるというふうに入選された場合、これはある種かなりのパーセンテージで成功が約束されているのです。可能性がなければ、受ける資格がないわけで、後半の実力を併せ考えて可能性があるというところに位置づけられたということはある意味で成功する可能性が十分あると、成功が約束されていると、こういうふうにはポジティブに考えて、しっかり自分のチャンスをつかんでほしいと思います。

松下幸之助の、運がいい人を採用しなくいけないということの意味は、自分は運がいいのだからと、ポジティブに考えられる人を採ることなのです。

諸君も、ポジティブシンキングで最後までベストを尽くしてもらいたいと思います。これは、状況を甘く考えることではありません。状況をちゃんと把握したうえで、自分の可能性を信じて、どれだけのことができるかと考え、最後まで頑張るとするのがポジティブシンキングです。状況をきちんと考えずに気楽にしていることがポジティブシンキングではありません。ここを勘違いしてはいけません。自分を信じて高校3年生諸君頑張って欲しい。ほかの諸君も、自分に対して期待感を忘れることなく頑張ってほしいなと思います。

今朝の話はこれで終わります。

( 学校長 )